

評価は
どのように
行えばよい？

指導と評価をわかりやすく 教師用指導書

教師用指導書 研究編

● 具体的に示した指導のねらい

「道徳の時間」で目指す姿がわかりやすく示されています。

● ねらいの構造化がわかる三段階の板書例

深く考えるための板書例について、順を追って解説しています。



主 題 名 社会のきまり 教科書 P.100～P.103

22 雨のバスでいりゆう所で

1. 主題のねらい

- 約束や社会のきまりの意味を理解し、それらを守ろうとする。
*周りの人たちのことを考え社会のきまりを守ることが大切であるとわかる。【理解、判断力】
- *社会のきまりを守らないために周りの人たちが抱く嫌な思いに共感【心情】
- *みんなが気持ちよく生活するために社会のきまりを守ろうとする。【実践意欲と態度】

2. 主題設定の理由

(1) ねらいの道徳的意味(目標観) とができるであろう。
約束は私的に交わした了解ごとであり、社会のきまりは私的に交わした了解ごとであり、社会のきまりを守ることが大切であるとわかる。約束や社会のきまりは、こうした意義の理解とそのよきに対して心を動かすこと、すなわち自覚によって支えられていることが大切である。

評価の観点にもつながる、具体的なねらいを示しています。

4. 板書例

板書の意図：教材の内容が、自己中心的であったよし子が、他の人たちとお母さんの思い等を理解することによって、ルールに対する考え方を容れさせる展開になっている。これに沿って、黒板左3分の1は、学習による子どもたちの考えの変容を書き、右3分の2は、他の人たちとお母さんの思い等の理解によるよし子の考えの変容を書く。

雨のバスでいりゆう所で

ルールは何のために
安全に生活 仲よく学習

かけ出すよし子
・ルールはない
・違反ではない

ポイント：導入でもった問を左上に書き、その下は空けておき終末に板書する。

ポイント：よし子自身自分の行動を違反とは考えていないことを押さえ、中央やや左に書く。

雨のバスでいりゆう所で

ルールは何のために
安全に生活 仲よく学習

他の人たち
・いやな気持ち
・来た順に乗るルール
・気持ちよく安心して乗るため

かけ出すよし子
・ルールはない
・違反ではない

横顔を見るよし子
・ルールがあるんだ
・気をつけよう

だまっているお母さん
・ルール違反
・周りの人をよく見てよく考えて
・自分で同じまちがいをしないように

ポイント：他の人たちの思い等を上部にお母さんの思いを下部に書く。

ポイント：お母さんの横顔を見るよし子の考えを右部へ書き、他の人たちとお母さんの思い等によってよし子の考えが変容したことを矢印で表す。

雨のバスでいりゆう所で

ルールは何のために
安全に生活 仲よく学習

他の人たち
・いやな気持ち
・来た順に乗るルール
・気持ちよく安心して乗るため

かけ出すよし子
・ルールはない
・違反ではない

横顔を見るよし子
・ルールがあるんだ
・気をつけよう

だまっているお母さん
・ルール違反
・周りの人をよく見てよく考えて
・自分で同じまちがいをしないように

ポイント：身の回りにある様々なルールが何のためにあるのかに対する考えのまとめを左下部へ書く。

● 詳細な「評価につながる見取り」

「評価につながる見取り」を展開例に示すとともに、本時における評価、道徳教育としての授業後の評価についても記述しています。

10分

・よし子の行動に対する他の人たちの思いを掘り下げる。

10分

・お母さんが黙っていた理由について考える。

終末 10分

③身の回りがあるルールやマナーを守らなければならない理由をまとめる。

発問 他人たちはよし子さんの行動を見て、どんなことを思ったでしょう。

● 困った子どもだ。先に来て待っている人のことがわからないのかな。

● こういう時は来た順番に乗るものだ。

● みんなが先を争って乗れば危険だし気持ちよく安心してバスに乗ることはできない。

発問 なぜ、お母さんは黙っていたのだろう。

● 他人たちのことを思い違反と考えた。

● 自分のちみちみちを考えた。

● 自分をしんじりした。

○ 嫌な思いを理解させた後、ここにルールのようなものがあることを押さえ、それがどのようなものか問返す。

○ そのルールが何のためにあるのか重ねて問い、バスに乗る人誰もが気持ちよく安心して乗るためのものであるとまとめる。

☆ 社会のきまりを守ることが大切であると理解できたか。

☆ きまりを守らないために抱く嫌な思いに共感できたか。

☆ 違反のことを教えた理由を問返し、よし子自身で考えた理由を問返す。

○ 嫌な思いを理解させた後、ここにルールのようなものがあることを押さえ、それがどのようなものか問返す。

○ そのルールが何のためにあるのか重ねて問い、バスに乗る人誰もが気持ちよく安心して乗るためのものであるとまとめる。

☆ 社会のきまりを守ることが大切であると理解できたか。

☆ きまりを守らないために抱く嫌な思いに共感できたか。

☆ 違反のことを教えた理由を問返し、よし子自身で考えた理由を問返す。

★印で「評価につながる見取り」を示しています。

6. 評価

● 本時における「評価のポイント」

- ・【判断力】乗車のきまりを守らないよし子の行動に対する他の人たちの思い等から、周りの人たちのことを考え社会のきまりを守ることが大切であると理解できたか。【発言 記述】
- ・【心情】乗車のきまりを守らないよし子の行動に対して他の人たちが抱いた嫌な思いに共感できたか。【発言 記述】
- ・【実践意欲と態度】身の回りがあるルールやマナーを守らなければならない理由について考えをまとめ、社会のきまりを守ろうとしているか。【発言 記述】

● 道徳教育につながる評価

- ・授業で取り上げた以外のルールやマナーを守らなければならない理由について話し合い、自ら守ろうとしているか。【発言 生活の様子】

教師用指導書 朱書編

● 授業で使いやすい指導書

児童用と同じ版型で、解説を適切に配置しています。

デジタル教科書(指導書用)にも収録しています。